



D: どころと  
M: 儲けようよ♪

# すずきDMライター通信

平成31年4月発行 vol.33

発行者：鈴木DMライター事務所 代表 鈴木光治

〒553-0003

大阪市福島区福島4-6-2

吉川産業ビル 206号

電話（携帯）：080-2434-5395

メール：info@kyoukan-copy.com

URL：https://kyoukan-copy.com



こんにちは。鈴木DMライター事務所です。

先日、ある経営者の集まる会合で素晴らしいお話を聴くことが出来ました。

そのお話を、ぜひ読者の皆様にも知っていただきたいと思い、今回記事にしました。

・・・NHK『プロフェッショナル・仕事の流儀』風？にまとめてみました。是非最後までお読みくださいね。

京都に300年続く老舗和菓子店がある。

その大看板にふさわしい威厳と品格を漂わせ今日も笑顔で店頭立ち、そして気難しい和菓子職人達を束ねるのは

▶ 女将 田丸みゆきさん。 ◀

しかし、そんな女将にも25年前、今でも決して忘れることが出来ない苦い出来事があった。

その苦い出来事は、東京からかかってきた一本の注文電話から始まった。

「結婚式で招待客には京都の和菓子をお渡ししたい。その和菓子を、ぜひあなたのお店で作って欲しい」

京都には数多くの老舗和菓子店がある。その中であえて当店を指名されたのだ。小躍りしたくなる気持ちを抑えて注文内容を聞いていた。

しかし、その注文の詳細を聞いた時、女将の表情はそれまでの喜びが一転して、困惑の表情に変わった。

「結婚式は日曜日。遅れることがあってはいけなから前日の土曜日に届くようにしてほしい。」

女将はわかっている。

生菓子は一日時間が空くだけで、大切な風味を損ねてしまう。風味の落ちたお菓子を出すことは店の暖簾に関わる。

しかも新郎新婦にとっては一生に一度の大切な晴れの日の注文。なおさら店の暖簾にかけても風味の落ちた生菓子を召し上がって頂くわけにいかない。

女将は、その注文を断った。

相手には見えないとわかっていても自然と電話口で頭を下げていた。しかし、電話口のお客様は「なんとかお願いします。風味を損ねる事は私からきちんと説明しますから」断っても断ってもお客様は諦めてくださらない。

女将の気持は、揺らぐ。

「お客様のご要望を叶えて差上げてこそ、お客様第一主義ではないだろうか。しかし、職人は決して日曜日のお菓子を前々日に作ることを許さない。どうしたものか・・・」

そこで、女将にある考えが浮かぶ。

「結婚式が日曜日という事を言わずに、金曜日に作るようにとだけ指示を出せば上手くいくかもしれない」

女将は、このご注文を受ける決心をする。

そして金曜日。和菓子作り当日。

遠く東京からの、晴れの結婚式の指名の注文。お店にとっては大変な名誉だ。

京都に数ある老舗の和菓子店の中から選ばれた大役を努められる喜びと責任感からか、和菓子作りに励む職人達もパートさん達も、いつもと違った張りつめた緊張感の中にいた。

しかし、女将だけは違った。

その日は朝から「これはいつの結婚式のお菓子なのか」と誰かに聞かれやしないかと、内心恐々としていた。

和菓子が出来上がり、宅配業者さんの車が荷物を受取にやってきた。

宅配業者さんの車を見た時、朝から恐々としていた女将の心が、一瞬、緩んだ。

女将の気が緩んだその時だった。工場から出てきた工場長が笑顔で女将の横に並んだ。そして女将に話しかけた。

「明日の結婚式では、ウチの和菓子を皆さんに喜んでもらえたらこんな嬉しい事はないですよ」

気が緩んだ女将は、今まで誰にも言わずに秘密にしていた事をうっかり口をすべらせた。

「いいえ、結婚式は日曜なんですよ」

大仕事を終え、緊張から解放され笑顔を見せていた工場長の表情が変わった。  
「女将、それはあきません！お菓子が硬くなります。これを送るわけにはいきません」

「しまった！」

女将は慌てて工場長に、結婚式の日を言わなかった事を謝り「今回だけはお客様のご要望に応えたいから見逃して欲しい」と、泣いて頼んだ。

しかし、工場長は首を縦に振らない。結局、今日は荷物を渡すことなく宅配業者さんには帰ってもらった。

「とんでもない事をしてしまった・・・」

頭が真っ白な状態の女将に、工場長は深々と頭を下げて、こう頼んだ。

「女将、なんとか東京のお客様に、日曜日の到着まで待つていただくように説得してもらえませんか。そしたら明日の朝、もう一度、一から作り直しをさせていただきます」

「どんな罵声を浴びてもいい」

覚悟を決めた女将は、わずかに震える手で受話器を取り電話をかけた。

今までの工場長とのやり取り、そして、明日一から作り直して送ることを素直に丁寧に伝えて、心から謝った。

すると、電話口から返ってきたのは、意外にも穏やかで冷静な返事だった。

「私の娘のために、そこまで思っ下さるなんて。わかりました。万一遅れたら私の方から説明します。ですから明日よろしくお願い致します」

女将は、胸をなでおろした。そしてこの時、老舗として曲げてはならない“お客様第一主義”、その言葉の意味を知った。

あの日から25年。工場長は定年退職の日を迎えた。83歳まで工場長を務めてもらった。

花束を手を会社に去る工場長の、小さく丸くなったどこか寂しげな背中を感謝の想いを込めて見送りながら、あの日の出来事で心に焼き付けたことを、もう一度しっかりと思い起こした。

「300年続く老舗の伝統を背負って守ってくれているのは、仕事に対して曲げられない信念を持った職人達なんだ」

女将は、あの時胸に刻んだ「お客様第一主義とは何か」を、今も自問自答しながら今日も笑顔で店に立つ。

この300年続く老舗の和菓子屋さん、  
笹屋伊織 ホームページは <http://www.sasayaori.com>

京都へお出かけの際は、ホームページで確認の上、是非お立ち寄りください。

そして300年続く老舗の味をお楽しみ下さいね。



笑顔の素敵な女将さんです。

田丸みゆき氏の著書  
『愛される所作 主婦と生活社刊』  
カバーより

## 編集後記

早いもので、今年ももう四月です。

1年の間には、過ごしやすい季節に春と秋がありますが、やっぱり春がいいですね。

なぜなら、春は、お財布がパンパンに“張る”、“春”です。

ご商売に励んでお財布をパンパンにしたら、頑張ったごほうびに春のぼかぼか陽気の中、楽しくお出かけやお買い物もよし。

(京都の和菓子もいいねっ♪)

どうか、充実した良い春をお過ごしください。



## 4月のちょっと変わった記念日

(私の独断で選んだ、ちょっと変わった記念日をご紹介します)

個人的には、平凡な幕の内が一番好きです。

### 4月10日 駅弁の日



駅弁のPRのため、社団法人日本鉄道構内営業中央会が1993年に制定。駅弁の需要拡大が見込まれる行楽シーズンの4月と、弁当の当の字から4月10日としたもので、弁当の弁の字が4と十の合成に近いことも日付制定の理由となっている。駅弁のおいしさ、楽しさをより多くの人に知ってもらおうのが目的。

すぐに役立つ366日記念日事典 創元社刊より  
この本は、雑談や「販促キャンペーンをしたいけど、キャンペーンをする理由がない」時など、ネタに困っている時に活用できますよ。

## 【鈴木DMライター事務所のロゴマーク】



鈴木DMライター事務所と  
関わりのある全ての人

招き猫ちゃんのように  
人とお金を引き寄せて、  
えびす様のようにニコニコと、  
そして、ブタさんのように  
まるまる豊かなビジネスと人生を。

## 【すずきDMライター通信】発行者



鈴木DMライター事務所  
代表の鈴木光治です。

## 【代表プロフィール】

1966年山口県柳井市生まれ。  
転勤族の家庭に生まれ、東は茨城県、西は長崎県と全国を転々。  
近畿大学卒業後、大阪地元の堅実な機械メーカー等に勤務。主に経理の仕事で通算15年のサラリーマンを経て今日に至る。  
東北での勤務が長かったせいか、時々、九州・東北そして関西弁が入り混じったおかしな日本語を話すことがあるようだ。



【すずきDMライター通信】が不要の方は、大変お手数ですが、弊社ホームページ (<https://kyoukan-copy.com>) に、購読解除専用メールフォームを設けています。このメールフォームよりお知らせください。